

若手が思う、「未来の土木力」の10のこと

1. はじめに

土木学会企画委員会若手パワーアップ小委員会（以下、当小委員会という）は、土木学会100周年記念事業「若手土木技術者の交流サロン」を契機に、2015年に土木学会内に設置された、若手技術者から成る委員会である。設置当初から現在に至るまで、土木の生産性向上、活性化、PR強化に資することを運営理念に掲げ活動してきた。

この具体的な活動内容については当小委員会HP^{*1}に譲り、ここではむしろ、今日までの活動を通じて感じた、今日の若手技術者が近い将来と少し先の将来求められることについて、「未来の土木力」と称して書き記したいと思う。

2. 近い将来、指導者になったら

これまで部下、後輩といった被指導者であった若手技術者の中には、間もなくして上司、先輩といった指導者の役割を担う者がいる。こういった指導者は、より主体的な立ち位置で業務を遂行し、被指導者の模範となること求められる。模範となるためには、技術の習熟はもちろんであるが、ここでは少し技術とは異なる点において、今後若手技術者が求められることについて考えたい。

昨今の急速な働き方改革を通し、土木業界も大きく変革している。これからは、常に効率化の意識を持って(1)仕事の量を減らすこと、これを達成

するために既存の考え方・システムに囚われず(2)仕事のやり方を変えることが求められる。このことは、当小委員会が20代～50代の土木業界関係者を対象として、「仕事量と充実感」についてアンケート調査^{*2}を行った結果からも、特に30代の約70%以上が業務量を多いと認識しており、業務量自体の削減が望まれていることが分かる。ただし、国土交通省中部地方整備局への書類削減に関するヒアリングから、現行の制度では業務を削減しようとしてもマイナーチェンジにしかならず、制度を含む全体的な仕事のやり方の見直しが必要となることが分かった。

また当小委員会で企画したベテラン技術者との見学会を通して、ベテラン技術者と交流し得られるものは(3)技術力の維持・向上に繋がるだけでなく、技術者としての在り方など精神的な成長への寄与も大きいと感じた。職場でもベテランと若手がざっくばらんに会話できるような(4)風通しの良い職場を目指すことが大切だと感じている。

被指導者の仕事に対するモチベーションの維持も重要で、これについては、土木を辞めた人、戻ってきた人計5人に実施したインタビュー^{*3}が参考になるかと思われる。このインタビューで全員が共通していたのは、「土木を嫌いになったから辞めたわけではない」ということである。仕事が猛烈に忙しかったり、雰囲気息苦しさを感じたり

^{*1} <http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/>



^{*2} 2016年9～10月実施、有効回答数133件
<http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/node/39>



^{*3} <http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/node/45>



土木学会企画委員会 若手パワーアップ小委員会



と、仕事内容への興味関心とは無関係な外的要因により、土木業界から去ったことが明らかになった。世代や性別、職種等により、モチベーションを低下させる要因は異なるため、指導者として、個々の(5)モチベーション阻害要因を見極めて適切に対処することが必要であり、そのためには日頃のコミュニケーションが重要となる。

3. ちょっと先の将来、職場環境が変わったら

我々若手技術者が指導者として板につく頃、少子高齢化による更なる労働力不足を受け、土木業界の存命をかけた様々な策が施され、土木技術者には新たな環境への順応が求められる。

まずは担い手確保のため、(6)良質で省力的な広報活動の展開は必至である。土木技術者は、その重要性を理解し適切な予算措置等を行い、職員の負担なく活動することが必要である。当小委員会では、その手始めとして、楽しみながら防災・減災を学べるカードゲーム「ポケドボ」(写真-1)



写真-1 カードゲーム「ポケドボ」

を製作・販売し、自らイベントを主催するとともに、高校等の授業教材として使用して頂いている。

また、外国人材の登用が活発化される。単一文化であった職場の急速な多文化化に戸惑うかもしれないが、(7)異文化交流に消極的にならず、(8)異文化を受け入れる心構えは持ちたい。可能であれば、当小委員会が実施した「日本と台湾の若手研究者・技術者の意見交換会」のような異文化交流を経験し、異文化を知り、日本の土木技術と比較しながら、多文化共生への理解を深めていければいいのかもしれない。

さらに、AI技術のようにこれまで他分野で適用されていた技術等が、土木に導入されることもあるだろう。当小委員会では実施している若手パワーアップ塾^{*4}のような(9)異業種交流を通じて他分野の取組を学び、土木の更なる発展につなげたい。

4. おわりに

立場や環境等の変化に対応していくことも重要だが、肝要なのは、それらを実現するのみならず、(10)よりよい状況を目指そうとするマインドセットを持ち続けることである。これからの土木業界を担う一員として、ともに育んでいければ幸いである。最後に、この度このような機会をご提供いただいた皆様に、心から謝意を表したい。

^{*4} <http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/node/24>

